

第42回工大祭 「KEEP ON SHINING」開催

第32回北海道科学大学との定期戦 開催



ダンスサークルによるパフォーマンス (大学祭にて)

第42回 工大祭 KEEP ON SHINING

日時：平成29年10月14日（土）・15日（日）

会場：八木山キャンパス

平成29年の工大祭のテーマは「KEEP ON SHINING」。昨年に続き、次の世代につながる大学祭の進化・飛躍、本学のさらなる発展をめざし、さまざまな企画を準備しました。「お越しいただいた皆さまにキラキラと輝いた笑顔になってほしい」というコンセプトのとおり、当日は5,000名を超える来場者の皆さまに、多くの感動と笑顔を届けることができました。



第42回 工大祭『KEEP ON SHINING』 開催のご報告と御礼

ほんだ はるひこ
本田 春彦

学生委員会副委員長
共通教育センター 准教授

第42回工大祭「KEEP ON SHINING」が10月14日（土）・15日（日）の2日間、東北工業大学八木山キャンパスにて開催されました。今年の工大祭は直前まで雨天予報でしたが、開催期間中は雨が降り出すことなく、盛況に終えることができました。進化を続ける工大祭の大きな柱となったゲストの方のパフォーマンス、それに呼応した来場者の熱気、2日間の工大祭を支えた関係者の皆さんの想いが雨雲をキャンパスから遠ざけたかのようでした。

工大祭のポスターに描かれた太陽は、雲の向こう側に隠れたままでしたが、キャンパス内にはいくつもの太陽のような明るい笑顔が輝いていました。笑顔に包まれた2日間となったのは、ひとえに工大祭にご協力してくださった皆さまのお力添えのおかげと深く感謝いたしております。

また、この1年間準備・運営に携わった大学祭実行委員会の皆さん、本当にお疲れ様でした。工大祭を内側から盛り上げてきた皆さんは一回りも二回りもたくましくなり、とても頼もしく感じられます。そして、また1年後、新しいテーマを掲げ工大祭が開催されますが、次の世代の実行委員会の活躍を願っています。



第42回 工大祭 「KEEP ON SHINING」を振り返る

あわの ゆうた
栗野 雄太

大学祭実行委員長
経営コミュニケーション学科 3年

第42回工大祭は皆さまにキラキラとした笑顔になっていただくことと、本学のさらなる発展をテーマに1年間活動してきました。今年最も力を入れたのは広報活動であり、周知を徹底したことにより多くの方にお越しいただけたと感じております。ステージの司会におきましては、昨年と同様お笑い芸人を招き、他大学の団体の出演や2日間のゲストライブと、お祭りにふさわしい賑わいとなりました。

2日間の総来場者数も昨年を大幅に上回る5,142名の方にお越しいただきました。結果「KEEP ON SHINING」というテーマのとおりに輝くことができたと思います。

最後になりますが、天候にも恵まれ大成功で終わることができましたこと、ご協力、ご支援いただきました皆さまに実行委員会一同、心より感謝申し上げます。

ご当地グルメフェスティバル

副委員長 ^{おさだ けんいちろう}
長田 健一郎
都市マネジメント学科 3年

今年は「美味しいものを食べて、キラキラと輝く笑顔になっていただきたい」という企画コンセプトのもと、9団体の学外出店者にご協力をいただき、ジンギスカンや横手やきそばなどのご当地グルメを提供しました。食を通して、来場者の皆さんにキラキラと輝く笑顔を提供することができました。来年もたくさんの方の笑顔があふれるご当地グルメフェスティバルになることを期待します。



コンサート企画

コンサート企画長 ^{やすだ しやうへい}
安田 翔平
安全安心生活デザイン学科 3年

当企画では、主にゲストライブの運営を行いました。今年は、14日(土)のアーティストライブにSKY-HI (AAA 日高光啓)、15日(日)のお笑いライブに、じゅんいちダビッドソン・ゆつてい・しんぶる内藤の3名をゲストとして迎え、両日とも歓声や笑い声が絶えない、とても賑やかなライブとなりました。来年度以降も、さらに輝き続ける工大祭を作り上げていけるよう、工大生と来場者が喜ぶゲストを選出していきたいと考えております。



ステージ企画

ステージ企画長 ^{さ さ き けん}
佐々木 謙
情報通信工学科 3年

毎年恒例の吹奏楽部・チアリーダー部・ダンスサークルによるパフォーマンスやビンゴ大会の他、本学学生であるレゲエシンガー「HAWKER9」のライブ、他大学サークルによる「インカレフェスタ」を行いました。また、「来場者参加企画」を例年より多く行い、「見て楽しむ企画から、参加して楽しむ企画」にすることができました。今年の反省点を活かし、来年は工大祭をステージ企画から盛り上げてほしいと思います。



スポーツ企画

野外特別統括企画長 ^{とし いさみ}
斗石 勇
クリエイティブデザイン学科 3年

スポーツ企画は、スポーツを通して盛り上がった勢いを、工大祭に繋げるという役割を担っています。5月には新入生と在学生の交流を図るため運動祭を開催し、大学祭前日の13日(金)にはスポーツ大会を開催しました。当日は悪天候により変更点も多くありましたが、例年より多くの学生や教職員の方に参加していただき、実行委員同士、力を合わせて無事に終えることができました。来年度以降は、参加者数、競技数をさらに増やし、工大祭に良い影響を与えられるような運動祭・スポーツ大会を目指して頑張りたいと思います。たくさんのご参加ありがとうございました。



パンフレット企画

パンフレット企画長 ^{すずき みらい}
鈴木 望
クリエイティブデザイン学科 3年

大学祭を周知するポスター、来場者の皆さまに配布するパンフレットの制作を行いました。今年は来場者数増加にともない、より多くの方に手に取って見ていただけたことを大変嬉しく思います。特にパンフレットには、教職員の皆さんをはじめ、協賛をいただいた企業の方、よりよいものになるようアドバイスをしてくれた大学祭実行委員会のメンバーの思いがたくさん詰まっています。制作に協力くださった皆さまには感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



一般企画

一般企画長 ^{たかはし りょうた}
高橋 凌太
都市マネジメント学科 3年

今年の一般企画は、多くの学生に屋台や展示企画を出展していただき、「学生主体の輝く大学祭にする」をコンセプトに活動しました。最も大変だったのは、ひとつひとつの企画の魅力を最大限に引き出す会場レイアウトの制作です。天候が危ぶまれる中での開催でしたが、今年は来場者数5,000人を超え、屋台や飲食スペースに多くの来場者を集めることができました。来場者の増加に対応できる飲食スペースが少なかったことが反省点ですが、来年はその反省点を踏まえ、より良い工大祭を作り上げて欲しいと思います。



祭飾企画

祭飾企画長 ^{かんの はやと}
菅野 勇人
経営コミュニケーション学科 3年

会場内に設置する案内看板や、正門に設置する門看板の制作を行いました。来場者の皆さまが、初めて来た会場でも分かりやすく移動ができるよう、新しい案内看板を増設しました。さらに、今年は新企画としてInstagramのパネルを制作し、多くの来場者の方に工大祭来場記念として写真を撮っていただくことができました。早い時期から計画的に作業を進めてきたため、余裕を持って全て完成することができました。



広報企画

広報企画長 ^{あべ ゆうき}
阿部 柚希
クリエイティブデザイン学科 3年

今年は、初めて県内の11大学が連携して活動している宮城UNIFESに参加しました。その結果、仙台駅構内のデジタルサイネージに広告を載せるなど新たな広報活動を行うことができました。他にもラジオ番組・テレビ番組への出演、仙台市内や他大学でのチラシ配りなど、授業の空き時間を利用して、大学祭実行委員全員でできる限りの広報活動を行いました。工大祭当日には、宮城県内のゆるキャラを招致し、子どもから大人までたくさんの方に笑顔で写真撮影をしていただくことができました。



幼稚園企画

幼稚園企画長 ^{いとう ゆいこ}
伊藤 結子
クリエイティブデザイン学科 3年

今年は「わくわく♪ばらだいす」という企画テーマのもと、「体験して楽しむ」という体験型のイベントを通して、子どもたちが心と体をのびのびと動かし、キラキラとした笑顔で楽しんでもらうことを重視しました。初めて行った工作イベントには、多くの子どもたちが参加し大好評でした。作品展示では、まず幼稚園・茂庭幼稚園・ゆりかご幼稚園・仙台袋原おおぞら保育園・おたまや幼稚園にご協力いただき、心より感謝申し上げます。来年も多くの子どもたちが楽しめる企画を考えてくれることを期待しています。



工学部
電気電子工学科

電気電子工学科として初めて迎えた今回の大学祭では、学科の特色を活かした体験型企画をはじめ、2日間にわたり大学院生と教員が身近な最先端技術を紹介するショートセッションを開催しました。恒例となっている学科屋台では、工夫を凝らしたお馴染みの名物を求めてたくさんの方がいらっしゃいました。来場者の方とのコミュニケーションを楽しむ学生の様子が印象的でした。



工学部
情報通信工学科

情報通信工学科では、情報コースと通信コースから各2研究室が参加し、各々の研究室の特色を活かした内容の展示を行いました。研究展示ブースにおいては、来場者の皆さまが学生の説明に熱心に耳を傾ける光景が見られ、体験ブースにおいては、子どもから年配の方まで楽しんで参加していただくことができました。本学科で学ぶ情報通信技術について、身近に感じていただけたのではないかと思います。



工学部
建築学科

今年は原寸大の茶室をダンボールでつくることを最終目標とし、宮城や東京から3名の建築家を外部講師として招き、2日間を通して、学生など30名が4グループに分かれて設計提案を行いました。2日目の最後に投票で順位を決め、1位に選ばれた案を実寸で後日制作することになりました。制作したダンボール茶室は11月3日(金)に開催される八木山フェスタでお披露目し、せんだいメディアテークで開催される建築家協会のイベントでも展示する予定です。



工学部
都市マネジメント学科

学科ブースでは、学科のカリキュラムや関連する資格および専門分野から「観光を通じたまちづくり」「災害からまちを守る」などについてパネル展示を行い、学科学生と教員が多くの来場者に紹介いたしました。また紙で橋の模型を作る体験企画では、高校生のみならず本学科生の保護者の方にも体験していただきました。本学科生主体の伝統のクレープ屋では、商品の改良を重ねた結果、近年を上回る数のお客さまに好評を博しました。



工学部
環境エネルギー学科

環境エネルギー学科では、穴澤正宏研究室と近藤祐一郎研究室による体験企画、セグウェイ試乗会とソーラークッカー屋台を開催しました。体験企画には子どもから高校生まで多くの方に足を運んでいただきました。セグウェイ試乗会は、210名の方に試乗していただきました。屋台は、天候に恵まれず太陽の光を存分に利用することはできませんでしたが、悪戦苦闘しながらも焼き鳥やソーセージなどを、来場者に振舞うことができました。



ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科

学生による型染を用いた染色ワークショップが実施され、100名を超える参加があり大変好評でした。地下鉄東西線の各駅をモチーフにしたステンシルのような型を利用した型染で、オリジナルのブックカバーとポストカード、ハンカチを30分程で作成しました。男女問わず、子どもから高校生、年配の方まで幅広い年代の方が参加され楽しんでいました。また、染色作品の展示「仙台手ぬぐい物語」もお客さまに好評をいただきました。



ライフデザイン学部
安全安心生活デザイン学科

本学科では、各研究室の紹介、地域資源である雄勝石を使った小物づくりや津山の木材を用いた箸づくりの体験、学科と結びつきの深い宮城各地の物産を集めた「てづくり市」、八木山地区での防災活動の紹介など、例年以上に盛りだくさんの内容となりました。どのブースにも多くの方が訪れ賑わっていました。視覚障がい者の方の作品の展示販売も行われ、パートナーと一緒に会場を訪れていた盲導犬が人気を集めていました。



ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科

今年度の学科企画は、経営コミュニケーション学科での学びを楽しみながら多くの人に知っていただきたいという思いから、クイズ企画を実施しました。ミニオープンキャンパスに来てくれた高校生、大学祭に足を運んでくださった方、本学科の卒業生や在学生など多くの方が60問のクイズに参加してくれました。それぞれの教員により、専門科目の中から選りすぐられた問題の数々はなかなか難解でしたが、高い正答率で賞品をGetされた方もいらっしゃいました。



共通教育センター
教職課程センター

第42回工大祭、共通教育センターと教職課程センターでは「ものしりクイズ大会」と「これはびっくり!液体窒素実験室」を開催しました。どちらの企画も子どもから大人まで来場していただきました。



子どもたちは液体窒素で急冷したスナックを慎重に口に入れて鼻から煙を出したり、レールコースターに超伝導体が滑走する様子を見て楽しんでくれました。子どもたちだけでなく、大学生や大人の来場者も、回転体の上で自転車の車輪を持ってまわし、それを傾けたときのジャイロ効果を体験するなどして物理の法則について興味をかき立てられたものと思います。

電気電子工学科

第4回電気電子テクノフォーラムを開催

学科名称を変更して最初の工大祭で、本学科は第4回電気電子テクノフォーラムを大学企画として開催しました。フォーラムでは、最先端の電気電子工学の技術を紹介するために、3つの専門分野(電子機械・ロボット系、医工学・バイオ系、光・情報デバイス系)から6名の教員と3名の大学院生と4年生によるミニ講義が行われました。ご参加いただいた高校生や保護者の方は、熱心に聴講してくださいました。さらに関連企画として、プログラミング教室などの体験学習型の企画や、知能移動ロボットやバーチャルカメレオンの実演・EVカート試乗などの体感型企画も行いました。幅広い年齢の方が楽しく参加してください、電気電子工学に関心をもっていただく良い機会になりました。



学生の発表

入試広報課

第3回オープンキャンパスを開催

本学八木山キャンパスにおいて10月14日(土)、15日(日)の両日、第3回オープンキャンパスを「工大祭」と同時開催いたしました。

県内外から進学を考えている高校生や保護者約300名にご来場いただきました。

野外ステージイベントでのチアリーダー部やダンスサークル、各学科企画や展示、元気な学生の姿に触れることによって進学してからの自分の姿をイメージしていたようです。

また、入試相談コーナーにも多くの高校生や保護者が訪れ、熱心に質問をしていました。

今回のオープンキャンパスでは学びの面以外での生き生きとした学生の姿、そして楽しいキャンパスの雰囲気を感じていただけたと思います。



入試相談コーナー

教務学生課

平成29年度 後援会主催大学見学会

第42回工大祭に合わせ、10月14日(土)・15日(日)に後援会の大学見学会が行われました。14日(土)は、青森、秋田、岩手、山形、福島、新潟の各県支部のご父母および役員の方187名、15日(日)には宮城県内のご父母および役員の方154名が本学八木山キャンパスを訪れました。見学会の前には、大学祭実行委員長から、今年の工大祭のテーマや企画についての説明と委員長として大学祭に懸ける思いが語られ、ご父母の皆さまは真剣に耳を傾けていました。

見学会では、日頃ご子息が学生生活を送っているキャンパスを見学し、学科企画やサークル展示、屋台など、趣向を凝らした催しを通して学生の活気あふれる姿を見ていただきました。



今野弘学長の挨拶



第32回北海道科学大学との 定期戦対戦成績報告

ほんだ はるひこ
本田 春彦

学生委員会副委員長
共通教育センター 准教授

北海道科学大学との総合定期戦が、8月29日(火)・30日(水)に開催されました。試合会場を学外施設に移して定期戦を無事に終ることができたのは、関係者の皆さまのご尽力のおかげです。学内外の運営協力に携わった皆さまに深く感謝いたします。

接戦となった競技では、選手だけではなく両大学の観客席からの応援にも熱が入り、特に最終競技となったバレーボールでは、ファイナルセットの2度のデユースまでもつれ込んだこともあり、大変印象に残る試合になりました。試合終了後は、接戦を演じた両大学の選手同士が記念写真を撮るなど、それぞれに友情や絆を深める機会になったものと思われます。

3勝8敗で総合優勝とはなりませんでしたが、次年度につながる



結果だと思います。悔しさをバネに、来年、北海道に勝ちに行きたいところです。

そして、今年試合会場に来られなかった皆さまも、次回はぜひ足を運んで両大学の選手たちの躍動感溢れるプレイをご覧ください。きっと感動が得られるはずです。



第32回総合 定期戦を終えて

せきやま けい
関山 慧

課外活動連合委員会事務局長
経営コミュニケーション学科
3年



第32回総合 定期戦を終えて

まつば あずま
松葉 雷

学部学生会会長
情報通信工学科
3年

今年の総合定期戦は、泉総合運動場と七北田公園庭球場で行われました。一時天候が乱れましたが、無事に全競技を行うことができたのは、両大学の関係者の皆さまのおかげであると思っております。この場を借りて感謝申し上げます。

結果は本学が3勝、北海道科学大学が8勝で総合優勝を逃してしまいましたが、手に汗握る接戦も多く、他競技の選手たちからも熱の入った声援が飛び交う程の、一体感のある定期戦となりました。

今回の経験を活かし、来年こそは総合優勝できるよう願っております。

今年の第32回総合定期戦は、連日続いていた降雨により開催が危ぶまれましたが、当日は奇跡的に雲が晴れ、太陽の日差しのもと無事に大会を迎えることができました。

総合定期戦の結果としては、本学は今年も総合優勝を逃してしまいました。

しかし、勝利だけが目的ではありません。両大学の学生が互いに楽しみ、切磋琢磨し合える関係を築けたことは、非常に大切だと思います。それだけでも本大会が価値あるものとなったのではないかと思います。

本大会の選手・関係者の皆さま、本当にお疲れさまでした。

第32回北海道科学大学・東北工業大学 総合定期戦報告

種 目	東北工業大学	対	北海道科学大学
サッカー	○	8 - 0	●
ラグビーフットボール	実施せず		
ソフトテニス	○	2 - 1	●
硬式テニス	●	2 - 3	○
バスケットボール	●	75 - 85	○
剣道	●	0 - 6 (1引分)	○
柔道	●	0 - 1 (2引分)	○
アメリカンフットボール	合同練習		
バレーボール	●	2 - 3	○
ハンドボール	○	26 - 20	●
弓道	●	96 - 115	○
バドミントン	●	1 - 4	○
卓球	●	1 - 4	○

※本学ラグビー部休部中のため、ラグビー競技は実施せず。

参加者数	教職員 29 名、指導者 5 名、 学生 304 名 合計 338 名
日 程	平成 29 年 8 月 29 日(火)・30 日(水)
場 所	東北工業大学 (泉総合運動場、七北田公園庭球場)
結 果	成 績 東北工業大学 3 勝 北海道科学大学 8 勝 総合優勝 北海道科学大学



なかむら ともか
中村 友香

硬式野球部 主務
経営コミュニケーション
学科 4 年

第43回 千葉工業大学硬式野球部定期戦

千葉工業大学との定期戦が、8月10日(木)に本学、長町キャンパス野球場にて行われました。序盤に守備の乱れにより先制点を許してしまいましたが、4回の攻撃で佐藤黎(安全安心生活デザイン学科4年)の安打で1アウト1、3塁のチャンスを作ることになります。しかし、惜しくも得点することができず、そのまま守備も流れに乗れずに5-0で敗れてしまいました。来年こそは白星を挙げたいと思います。

また、試合後は懇親会を開催し、お互いの秋季リーグ戦での活躍を誓い、親睦を深めました。



第43回千葉工業大学・
東北工業大学定期戦(硬式野球)

日 程 平成 29 年 8 月 10 日(木)
場 所 東北工業大学 野球場

結 果 東北工業大学 0 - 5 千葉工業大学
参加者 小幡早苗監督、佐々木信行ヘッドコーチ、須藤将仁コーチ、部員 50 名



アートブックフェアへの出展

かとう りこ
加藤 理子

クリエイティブデザイン学科 4年

紙やデザイン、写真などが好きなクリエイティブデザイン学科の学生12名が集まり、本をめくる際の音をイメージしたSssPala（シュバラ）という団体名で活動しています。10月5日（木）から8日（日）に開催された「THE TOKYO ART BOOK FAIR」に作品を出展しました。アートブックや写真集、小冊子を来場者と対話しながら、売買を行うことができるこのイベントには、個人や企業のほか、美術系・デザイン系の大学に通う学生も出展しており、交流の場にもなっています。

自分で考えた本を、内容はもちろんのこと、紙面のレイアウトや製本全てを会場でたくさんの方に読んでいただけたことは、とても嬉しく、励みになりました。自分の考えに共感してもらえることの面白さと感謝を忘れず、今後も制作に励みたいと改めて強く感じました。



作品出展



作品の説明



たたたの会

きっかわ さいか
吉川 采花

安全安心生活デザイン学科 3年

学生自主企画「たたたの会」は、「たけで たべて たのしむ」ことを目的としています。地元資源を活用したものを、考えるきっかけになればと思い企画しました。9月26日（火）に長町キャンパスで行われた流しそうめん大会には、学科学年を問わずさまざまな学生や職員の方が、参加してくださいました。イベントで使用した流しそうめんの装置や器、箸はすべて本学敷地内の竹を伐採し、手作りで加工しました。反省点を挙げるとするならば、今回のイベントを行うにあたり事前準備の確認を怠ったことです。次回のイベントでは段取りをきちんと確認し、計画的に準備する必要があると感じました。

今回の流しそうめんは夏のイベントですが、今後、秋と冬にもイベントを実施します。もちろんこちらも竹を使って食を楽しむイベントとなっておりますので、ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。



譲り合い精神

流れるそうめん

奨学生紹介

平成29年度 公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金

選考の結果、本学からは学部・大学院合わせて5名の学生が奨学生として採用されました。選ばれた皆さまのさらなる飛躍を期待しています。



きつい みほ
橋井 美保

建築学科
3年

▶好きな言葉
一期一会



いちさわ らな
市沢 らな

環境エネルギー学科
3年

▶好きな言葉
自分の耳が許す音
だけが音楽である



おおば けいと
大庭 圭人

経営コミュニケーション学科
3年

▶好きな言葉
乾坤一擲



おいかわ まさき
及川 雅希

土木工学専攻
博士（前期）課程 1年

▶好きな言葉
一生懸命



こんどう つばさ
近藤 翼

環境情報工学専攻
博士（前期）課程 1年

▶好きな言葉
人生経験に無駄は
無い

平成29年度 郵政福祉教育振興基金奨学生

選ばれた皆さんのさらなる活躍を期待しています。



すもうやま しゅう
角力山 柊

都市マネジメント学科
3年

▶好きな言葉
一日の価値は全部一緒



さとう しゅうたろう
佐藤 祥太郎

情報通信工学科
4年

▶好きな言葉
日進月歩

合同企業説明会 in 長町



こいわい ひろのり
小祝 慶紀

就職委員会副委員長
経営コミュニケーション学科 教授

本学長町キャンパスにおいて、9月13日(水)「東北工業大学合同企業説明会」が開催されました。9月に開催される長町キャンパスでの合同企業説明会は、昨年度に引き続き2回目となります。29年度もライフデザイン学部の学生の求人を中心に、多くの企業が当該説明会へご参加くださいました。出席した4年生も、夏休み返上で真剣に企業の説明を聞いていました。

今年の特徴は、当該説明会への参加企業で活躍している本学の卒業生を同席した企業が多かった点です。参加した4年生にとっても、先輩の話を直接聞いて、質問できる良い機会となったようです。また、本学が取り組む「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材



の育成事業(COC+事業)」へ賛同してくださる企業の参加もありました。28年度当該COC+事業を通して就職した卒業生も参加してくれました。

今後も本学の就職支援の一環として、学生と企業とのマッチングの機会を増やしていきます。

インターンシップ



社会を感じる

かなぐち ななこ
川口 菜々子

情報通信工学科 3年
実習先: (株) ミライト

5日間のインターンシップでは、主に通信建設の土木工事現場を見学させていただきました。普段は見るできない「とう道」※の内部や電線共同溝の施工を間近で見て、お話を伺えたことは、とても貴重な経験でした。

今回のインターンシップを通してこの業種の理解が深まり、業務の流れや職場の雰囲気を感じることができました。また、社員の皆さんと仕事を請け負っている作業員の方たちの関係性から、働く上でのコミュニケーションの大切さを改めて学びました。この経験を今後の就職活動はもちろん、大学生活にも活かしていきたいと思います。

※「とう道」とは、通信ケーブルやガス管などの敷設専用管のうち、保守作業などで人が立ち入れるもの。



インターンシップを終えて

ぬまはた ゆり
沼畑 侑里

経営コミュニケーション学科 3年
実習先: (株) スズキ自販宮城

インターンシップでは、ディーラーの営業とサービスの両方を体験することができました。実際にお客様へお茶をお出ししたり、お客様の家庭訪問をさせていただき、今までにない貴重な体験ができました。さらに、営業スタッフと直接お話しできる時間を設けていただき、学生のうちにしておくことや就活で大事なことを教えていただきました。また、サービスの見学では、実際に点検をしているところを見ることができました。5日間のインターンシップはとても充実し、インターンシップでしかできないことを体験することができました。



スケジュール

日程	行事
5月19日・26日	説明会
6月9日	エントリーシート提出期限
6月中旬～6月下旬	マッチング
7月24日	事前研修会(合同開催)
夏季休業期間	インターンシップ実施
10月5日・11日	報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

参加人数(平成29年度) (単位: 名)

工学部	1年生	2年生	3年生	4年生
電気電子工学科		1	2	
情報通信工学科			11	
建築学科			22	
都市マネジメント学科		2	25	
環境エネルギー学科			5	
合計		3	65	

ライフデザイン学部	1年生	2年生	3年生	4年生
クリエイティブデザイン学科			25	
安全安心生活デザイン学科			11	
経営コミュニケーション学科			8	
合計			44	

※本学窓口を通したインターンシップ参加人数

さまざまな現場体験・現地調査を通して建築の設計を考える

工学部 建築学科

竹内 泰 研究室 (TAKEUCHI Yasushi Laboratory)

本研究室は「建築設計」の研究室です。建築設計といえば、一つの敷地に与えられた与件や機能を満たす建築を設計することを思い浮かべるといいますし、そのような役割も確かに求められます。しかし、われわれのアプローチは、その役割に加え、建築と周辺環境や社会、その仕組みなどとの関連を見出し、そこに建築のデザインの可能性を見いだしていこうとします。そのため現地調査や現状分析は欠かすことができません。過去から未来へ、周辺に馴染み、よりよい環境を形成する建築をめざします。



学生へのメッセージ

建築は、人々の生活に最も身近な空間を創り出し、考える学問です。人々の生活に最も身近な学問であるため、人々をとりまく社会とのかかわりも広く

深い学問ともいえます。

皆さんが、建築を志望する際、まずは住宅を設計したい、建物をデザインしたいなどが動機としてあるかもしれませんが。しかし、いざ大学で建築を学びはじめると、その学ぶべきことの幅広さに、驚き戸惑うかもしれません。同時に、建築を学ぶにつれ、これまで想像していなかった新しい興味や可能性にも出会うことができるはずです。そして、普段見る建築のすべてが、多様な人々のかかわりによりできあがり、人々の努力の結晶としてあることを知るに違いありません。皆さんが建築を学びそして社会に旅立つとき、建築の重要な役割の一つを担う専門家に成長していることを共にイメージし、学んでいきましょう。



インドネシアでのまちなみ調査



関西での大学間合同設計演習提案作品



京都町家リノベーション事例見学



陸前地域のスレート民家調査ミーティング

学生の声

さとう しんたろう
佐藤 真太郎

工学部 建築学科 4年

いとう りょうすけ
伊藤 諒佑

工学部 建築学科 4年

すぎもと ゆうま
杉本 裕磨

工学部 建築学科 4年

現在、私が所属している竹内泰研究室では、ゼミの活動のほかにもさまざまなプロジェクトが同時に進行しており、日々それらのプロジェクトに勉強しながら、そこから得た知識や経験を建築の設計に生かしています。

私はインドネシアでの現地大学生とのワークショップや、関西の大学を中心とした横断的な合同設計演習に参加しました。国内外を問わず他大学の学生の考え方や設計手法、分析方法などを知り、また互いの違いも知ることができました。今後の卒業設計などに向けた良い刺激となっています。

私は、竹内泰研究室に入ってからさまざまなプロジェクトに関わることができました。例えば、安全安心生活デザイン学科と合同の陸前地域のスレート民家調査、関西12大学による都市・建築に関する合同演習などです。これらの経験を通して、具体的な調査の重要性や必要性を知り、作業を通じて自身の建築設計が格段にレベルアップしたと感じています。10月からは、台湾・中原大学に短期留学する予定です。卒業設計に向け、台湾でいろんな知識を吸収し、自身最後の設計を悔いなく最良の成果へと上げたいと思っています。

私は竹内泰研究室において商店街の再生や路地再生、都市問題について研究しています。現在、都市ではショッピングモールや超高層ビルなど巨大資本がシャッター商店街などを生み、人々の生活を変化させています。私は、人々がより幸せに生活できる街はないか考えたいと思っています。分からないことも多いですが、竹内先生や研究室のメンバーと協力し、卒業設計に向け日々頑張っています。私たちの研究室は、互いに成長し合える研究室です。

教室では語られない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

思う存分
やんちゃであれ



たがわ いくや
田河 育也

電気電子工学科 教授

研究室を持つ立場からは、真面目な学生が大好きです。しかし、皆さんの人生を考えると研究室なんてどうでもいいですよ。大学で何を学ぶか？講義？もちろん勉強すべきです、役に立ちます。でも、それだけではもったいない。学生時代は、その時しかできない体験をする時間、その体験は生涯の親友に出会える機会です。バイトもいいでしょうが、ちょっと無謀とも思えることをやってみませんか。ボランティアに行ってみよう！一人で遠くに旅してみよう！思う存分やんちゃに過ごしてみてください。人生の糧になりますよ。

身近なインフラ・
土木遺産を楽しもう！



すとう あつし
須藤 敦史

都市マネジメント学科 教授

最近、ホームページやSNSなどで個人の興味や趣味に関するものが、数多く発信されています。その中で、ダム、夜の工場、橋梁・鉄塔などのインフラストラクチャーや土木遺産や廃墟などへの旅行記・写真がアップされているのを目にします。特にダムを鑑賞して楽しむ「ダムマニア（某有名タレントもその一人）」も増えてきており、話題になっています。インフラストラクチャーや土木遺産は、その規模が大きく圧倒され、魅力的です。仙台近郊にもインフラストラクチャーや土木遺産は多数ありますので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

ていねいに
磨いてください



ふるかわ てつや
古川 哲哉

クリエイティブデザイン学科 准教授

学生の皆さんが授業の課題で取り組んだ作品には、驚くほど優れた発想が潜んでいることがあります。そういった作品を見つけると嬉しくなるとともに、発想の後ろに積み上げられたであろうさまざまな試行錯誤が想起され、学生を頼もしく感じます。

課題に取り組み作品を生み出す発想を支える知性や想像力、それを伝える言語力は、磨けば磨くほど向上するものです。学ぶことは自分自身を磨くことかもしれません。知的能力は限りある資源ではないので、磨くほどに輝きます。出し惜しみせずに積極的に試行錯誤を繰り返し、ていねいに磨き続けて欲しいです。



あまりに無謀なチャレンジは止めましょう！



フィルダム前面



「見立てブック」は価値創造を目標にした課題



ロジャー・ウッド博士のご自宅で



土木遺産（コンクリートアーチ橋）



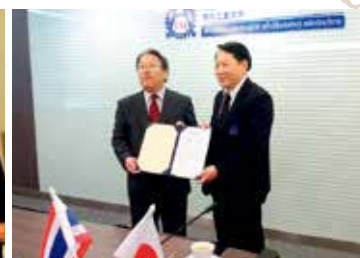
「ボタン」を「食べ物」に見立てた作品

タイ・泰日工業大学創立10周年記念式典参加 および国際交流協定締結について

東北工業大学は、タイ・泰日工業大学が創立した平成19年より国際交流協定を取り交わしています。今年で創立10周年を迎える泰日工業大学の記念式典に本学の今野弘学長が招待され、記念講演および式典に出席しました。また、29年度が期限となる国際交流協定を継続して締結するため、泰日工業大学を訪問して、今野弘学長とバンディット・ローツアラヤノン学長との協定調印式を行いました。タイと日本の友好のため、さらなる国際交流の活性化に努めて、研究、教育、文化などについて相互理解と友好親善を深めていくことを互いに確認しました。



バンコク市内ホテルの式典会場にて



今野学長とローツアラヤノン学長が協定書に調印しました

台湾・玄奘大学「中国語・文化研修」に 本学学生が参加しました

本学の国際交流協定校である台湾・玄奘大学にて開催した「中国語・文化研修」に本学より3名の学生が参加しました。初級中国語を学ぶとともに台湾の史跡や名所を巡り、歴史や文化に触れる2週間の短期留学です。玄奘大学の学生との交流もあり、現地の先生方との楽しい小旅行もあり、台湾を満喫する研修となりました。今回は、途中で本学学生1名が体調不良になりましたが、台湾の方が献身的に看病してくれるなど、その親切で思いやりある行動には感銘を受けました。



台湾中部にある原住民族を紹介する九族文化村へ行きました



台湾の学生と楽しく交流ができました

タイ・泰日工業大学「サマースクール」に 本学学生が参加しました

泰日工業大学では、日本国内の大学生に参加募集をするサマースクールを毎年開催しています。本学からも学生2名が参加しました。プログラムでは、大学での講義でタイの歴史やタイ語を習い、タイの一般家庭へのホームステイ、現地の日本企業訪問もありました。小旅行では、博物館・寺院の見学やアユタヤの史跡見物、マングローブ植林活動などと盛りだくさんの10日間のプログラムでした。学生達も初めてのタイ旅行では、道路渋滞や生活習慣の違いなどに戸惑いつつも異文化に触れ、刺激ある短期留学となりました。



三島由紀夫の小説の舞台でも有名なバンコク市内にある暁の寺（ワット・アルン）



バンコク市内の交通渋滞は日常茶飯事のこと

外務省主催 JICE KAKEHASHI Project (アメリカ・テキサス州ヒューストン派遣) 報告 No.3



日本文化を再発見

みさか ゆうと
三坂 勇登 経営コミュニケーション学科 4年

グレゴリー学校の跡地から見つかった
当時の生活用品や写真



私たちはヒューストン滞在4日目にアフリカン・アメリカン図書館を訪れました。ここはアフリカン・アメリカンの歴史や、彼らが受けた差別について、当時の写真や展示物を実際に見ながら学ぶことができる場所です。また、ここでは世界初のアフリカン・アメリカンの子供たち向けの学校が建てられていた場所でもあり、今でも当時使われていた机や椅子がそのまま残されています。私たちは意外なところで日本との共通点も見つけることができました。図書館がある地域の道路はデコボコで整備されておらず、アメリカは車社会なのはどうしてだろうと不思議に思いました。図書館の学芸員さんに詳しく尋ねてみると、デコボコの道路は黒人奴隷の方が自分たちの手で作ったもので、差別が行われていた歴史を忘れないためにあえて整備しないのだと教えてくれました。日本でも古い街並みが残る京都や奈良では、その美しい景観を壊さぬよう景観保護条例があり、コンビニやガソリンスタンドなどはその土地の景観に沿ったカラーリングがしてあります。今回のKAKEHASHI PROJECTはアメリカの文化はもちろんのこと、普段生活しているだけでは気が付かない日本の文化も再発見することができ、素晴らしい経験となりました。

地域連携センターだより

■イノベーションジャパン2017 参加報告

工学部 電気電子工学科 丸山次人研究室が、8月31日(木)・9月1日(金)東京ビックサイトで開催された「イノベーションジャパン2017 ～大学見本市&ビジネスマッチング～」に、「高齢者の外出を手助けする賢い電動アシストカート(カンパニユラ)」を出展・実演しました。2日間で100名近い来場者が丸山研究室のブースを訪れ、実際に操作をしていただき、多くの方に電動アシストカートの良さを体験していただく機会となりました。

カートの特徴である段差乗り越えと下りでの速度抑制の操作を体験いただき、研究成果をアピールすることができました。本展示会には、研究室の学生3名も参加し、研究成果の説明と実演を行い、各方面の来場者の声を収集しました。学生にとって、東京で行われる大規模展示会に参加して、産学連携の場の体験、研究成果の実演、さらに来場者との交流を深めるなど、大変内容の濃い2日間となりました。今後、収集した来場者の声を卒業



研修に活かしていきたいとのことでした。地域連携センターでは例年、本展示会の出展支援を行っております。研究成果の発表の場、産学連携の場として、次年度も多くの研究室からの出展を期待しております。

■新たな復興大学事業を実施

本学も加盟している学都仙台コンソーシアムでは、震災直後から人材育成、教育復興、企業支援、ボランティア支援の4事業からなる復興大学事業を実施しています。

29年度から宮城県の助成を受けて、新たなプログラムで被災地の復興に向けた各事業を行っております。

本学が担当する事業の一つである人材育成事業では、プログラムをあらため、学生に加えて県民の方を対象とした、6科目30講座の「県民講座」を10月から開講しています。多彩な講師陣による復興の政治学から経済学、社会学、思想、生活構築学および科学技術までの普遍的に応用可能な幅広い内容で開講します。併せて、座学だけではなく、3コースの現場実習による、より実践的な復興人材育成教育事業を視野に入れています。

また、本学では「企業支援ワンストップサービス」事業も推進しており、被災地域の方と共に地域や企業の再生、発展に向けた支援を実施しています。コーディネータによる企業訪問をはじめとした相談対応の実施、地域や企業課題に対し、支援機関との連携の他学術機関の資源、シーズを活用した支援、協力を活かした学術機関とのマッチング支援などに取り組んでおります。



復興大学「県民公開講座」 受講料無料

開講時期 平成29年10月～平成30年2月まで(毎週土曜日午後)

開講場所 平成29年10月～12月【東北工業大学 八木山キャンパス】〒982-8577仙台市太白区八木山3番地13号1号
平成30年1月～2月【東北工業大学 一番町ロビー 2階ホール】〒980-0817仙台市青葉区一番町1-3-1

受講対象 学生・生徒及び一般市民・県民の皆様

講座内容
【復興人材育成教育事業6科目】
復興の思想・復興の政治学・復興の経済学・復興の社会学・復興の科学技術・復興の生活構築学

講座開校及び申込についての詳細は、後日ご案内致します。

お問い合わせ先 東北工業大学 地域連携センター(復興大学事務局)
〒982-8577仙台市太白区八木山3番地13号1号(東北工業大学八木山キャンパス3号館)
TEL: 022-305-3816 / FAX: 022-305-3029 E-mail: fukushima@itoh-tech.ac.jp

さまざまな課題に対し、支援、提言を行い地域のさらなる復興と活性化に貢献することを目指していきます。

■平成29年度地域産学連携プロジェクト研究テーマ一覧

実用化開発研究

プロジェクト名	学科名	代表者
シミュレーションアプローチによる仙台都市圏の交通需要予測ツールの開発	都市マネジメント学科	菊池 輝
水稻の生育管理システムに入力する圃場空撮画像および生育解析補助データの取得手法の確立	環境エネルギー学科	牧 雅康
J-ALERTの多層情報情報発信システムの研究・開発	情報通信工学科	松田 勝敬

実用化試験研究

プロジェクト名	学科名	代表者
大気計測センサを用いた仙台市での環境測定・情報交換と小型測定器の有効性評価	環境エネルギー学科	丸尾 容子

地域産学連携研究

プロジェクト名	学科名	代表者
旧城下町・登米における歴史的建造物の調査と価値発信プロジェクト	建築学科	中村 琢巳

■認知症予防や支援を呼びかけるイベントー八木山市民センターまつりにてー

いとう みゆき
伊藤 美由紀 安全安心生活デザイン学科 准教授

八木山市民センターまつりが10月7日(土)から開催され、本学と八木山地域包括支援センター、仙台赤十字病院、八木山の町内会、八木山市民センターが連携した「認知症予防と認知症のサポート」を呼び掛ける寸劇を行いました。

ストーリーは、認知症を発症した母親を抱える家庭を住民や民生委員、医師や包括支援センターが支えるものです。仙台赤十字病院の北純院長や八木山連合町内会の高橋秋男会長も登場し、皆のメッセージを込めた演技に聴講者の反応も上々でした。

本学科では、学生に向けて認知症サポーター養成講座も実施しており、地域での活動を今後検討していきます。



認知症の家族への対応や地域の関わりを演じる



最後は出演者全員で会場へメッセージ

■秋保野尻交流カフェ「ばんどころ」の開所と本学科の関わり

いとう みゆき
伊藤 美由紀 安全安心生活デザイン学科 准教授

本学科の菊地良寛教授と伊藤が地域活動支援などで関わってきた秋保地区野尻町内会が、今年度住民主体でまちづくりに取り組む「野尻いぐる会」を立ち上げました。

野尻集会所を野尻交流カフェ「ばんどころ」としてオープンする開所式が10月14日(土)に行われ、郡和子仙台市長もお見えになりました。「野尻いぐる会」の地域内外との交流活動には、川遊び体験や農業体験、そばまつりなどがあり、本学科学生も参画しております。

本学科では、ロゴマークデザインを行い、のぼり旗や店舗幕などに活用したり、店舗内外のレイアウトに関わるなど、地域住民の方と協働で取り組んでいます。



野尻交流カフェ「ばんどころ」開所式



ロゴマークデザインや店舗内外レイアウトに参画

■第12回「秋の八木山フェスタ」が開催されました

12回目を迎えた「秋の八木山フェスタ」が、11月3日(金)に八木山市民センターを会場にして開催されました。

秋晴れのもと、多くの来館者で賑わいました。各イベント会場は、親子連れが各々の催しを楽しんでおりました。

今年は、体育館の一角に仙台城南高校生によるワークショップ「サンショウウオマップをつくろう」と展示「イラスト・パネル展示」のコーナーを設置しました。ワークショップでは、高校生が日頃の成果を解り易く、工夫を凝らした説明をしておりました。



◆本学元学長虫明康人名誉教授IEEEマイルストーン展示除幕式の開催

入試広報課

本学元学長虫明康人名誉教授のアンテナ研究が、IEEE（米国電気電子学会）より歴史的偉業として評価・認定を受け、IEEEマイルストーンの銘板が献呈されました。

これにより、虫明康人名誉教授より本学へレプリカが寄贈されることになり、本学八木山キャンパス付属図書館本館内の史料センターへ展示コーナーが設置されました。

これを記念し、8月9日(水)に虫明康人名誉教授をはじめとして、今野弘学長、樋口龍雄理事長他学内外の関係者による、IEEEマイルストーン展示除幕式と披露を行いました。

修了後は、虫明康人元学長を囲んで関係者が歓談し、和やかなうちに閉会となりました。



展示コーナー除幕式

◆七夕まつりへの参加

入試広報課

今年の七夕飾り制作は、ポータルサイトを通して全学生を対象に参加を募りました。

その結果、募集人数を10名～15名にしておりましたが、この人数を遙かに上回る30名以上の学生が呼び掛けに応じてくれました。

昨年制作に関わった学生に制作過程の指導を依頼し、デザイン案を参加者全員に提出してもらうことにし、コンセプトが決まったところで制作に取り掛かりました。

限られた時間の中での作業は、大変だったと思いますが参加者全員が自分の役割をしっかりと果たしておりました。

今回の制作に参加した学生にとって、学部学科を超えた連携が取れたことで新たな交友関係が生まれたことは大きな収穫となったことと思います。



七夕飾りを前に

◆「東北工大Live講義2017」開催

入試広報課

「東北工大Live講義2017」を9月9日（土）に開催いたしました。

はじめに、入試説明会を行い各試験科目の傾向や対策についての説明、その後、各学科で計8講義を開講し多くの高校生が熱心に講義を受けました。

また、最後には「小論文・面接対策講座」でAOVA入試や推薦入試における小論文の書き方、面接の心構えなどについて解説をし、入試シーズン本番を控えた受験生が真剣に耳を傾けました。

「勉強、環境、内容、すべてにおいて引きつけられるものがありました。」「小論文・面接対策はとても良かった。この大学に入りたいと思いました。」などの感想が寄せられ、このイベントを通して本学の魅力を感じてもらえたようでした。



学科の講義を熱心に受講する高校生

◆工業意匠学科創立50年記念事業を開催

東北工業大学工業意匠学科創立50年にあたり、「東北工業大学工業意匠学科創立50年記念事業－工業意匠学科（デザイン工学科）からクリエイティブデザイン学科・安全安心生活デザイン学科まで－」を開催いたしました。

工業意匠学科は、1967年（昭和42年）4月に工学系デザイナーの育成を目指した専門学科として開設されました。開設当時は高度成長に伴う工業化社会であり、工業デザイナーの育成の機運が高まっていた時代でもあります。その後、常に時代の社会情勢を鑑みながら、求められる人材育成のために、「創立期・確立期・発展期・転換期・大転換期」という流れの中で、2017年（平成29年）4月をもって創立50年を迎え、これまでの卒業生は4,626名（クリエイティブデザイン学科と安全安心生活デザイン学科を含む）で、各分野で活躍しております。

記念事業は、「シンポジウム・パーティ」と「展示会」を下記により開催しました。

シンポジウム第一部では、「これまでの50年」－暮らしのためのデザイン・秋岡芳夫を語る－をテーマに、5名のパネリストから工業意匠学科第5代学科長であった秋岡先生の教えや、地域における実践活動について、また、OBからも就職後のデザイン活動の紹介がありました。第二部では、「これからの50年」－卒業生が語る実践者の視点・女性の視点－をテーマに、5名のOB・OGから、工業製品から地域産品のデザイン開発、さらにはディスプレイや広告、マーケティングに至るまでの仕事の内容と、それぞれの視点から、これからのデザインについてコメントがありました。

パーティ会場は200名の参集があり、教職員や協賛企業、関係団体の方との出会いもあり、懐かしく楽しい会となりました。

■工業意匠学科創立50年記念シンポジウム・記念パーティ

・日時：11月11日（土）14：00～20：00

・場所：仙台国際ホテル 2F

○記念シンポジウム（14：00～17：10）

テーマ：工大・デザイン「これまでの50年」「これからの50年」を語る

・第一部「これまでの50年」

－暮らしのためのデザイン・秋岡芳夫を語る－

〈休憩〉映像で紹介：工業意匠学科から50年の紹介

・第二部「これからの50年」

－卒業生が語る実践者の視点・女性の視点－

○記念パーティ（17：30～20：00）

■記念展示会：「工業意匠学科創立50年とOB・OGからのメッセージ」

・日時：11月10日（金）～15日（水）

・場所：一番町ロビー

〈記念展示会（一番町ロビー）〉



記念ロゴマーク
(デザイン：クリエイティブデザイン学科 3年伊藤結子さん)



〈記念シンポジウム・記念パーティ〉



共通教育センター **サイモン・ダニエル・クック** 准教授

共通教育センター

すずき じゅん 鈴木 淳 准教授 がご紹介



英会話や国際交流で大学生活を10倍楽しむ！

サイモン・クック先生は、イギリスのブライトンのご出身で、現在は共通教育センターの准教授をしておられます。授業では、おもに「英会話」の授業をご担当されています。クック先生は、空手の有段者であると同時に、音楽を好み、ピアノ演奏や作曲もなさいます。また、英語はもちろん(笑)、日本語、さらにはフランス語も堪能でいらっしゃいます。クック先生のご専門は英語教育であり、なかでも「大学生の英語学習における動機づけ」をご研究されており、時々、研究室から学生にスカイプでインタビューをしている声が聞こえてきます。英会話や海外留学に興味がある学生の皆さんは、ぜひクック先生の研究室を訪れてみてください。



2016年KAKEHASHIプロジェクトのメンバーと

topics

避難訓練実施報告

東日本大震災「平成23年3月11日発生」の経験を基に、今後もしこりうる大規模地震に備え、「自分の身の安全は自分で守る」ことを想定して、学生および教職員が迅速安全に避難することを目的に、自衛消防隊と減災行動・体制検討WGが共同し、11月1日(水)午後1時、両キャンパス合せて1,932名の学生と教職員が参加し避難訓練が行われました。

昨年より参加人数が大幅に増加しましたが、教職員および非常勤講師の方の協力により、各建物から指定避難場所へスムーズに避難誘導が行われました。

また、新しく導入した学生証カードリーダーにより、避難者の人数確認作業も短時間に行うことができました。



column

かみにし はじめ

上西 創 ウェルネスセンター カウンセラー

「境界線」が持つ力



今年は雨が多く、夏らしくない夏でしたが皆さんはいかがお過ごしだったでしょうか。雨は苦手という方もいるかもしれませんが、私は雨が大好きです。雨の日にリビングの窓を開けて読書をしていると、雨の音が雑音を消し去り私を包み込んでくれているようで気持ちが落ち着くのです。それはあたかも外の世界と隔絶された私だけの世界に浸っているような、安心感とも言えるようなものです(ちなみに私は知人ぞ知る「雨男」で、雨とは相思相愛の仲です)。秋になると、雨にとって代わって虫の音がその役割を果たします。虫の音に包まれながら自分の好きなことに没頭するのは、秋の夜長の楽しみ方の一つですよ。

心理学の世界では、このような「わたしだけの場(時間や空間、心の領域も含む)」があることを重要視していて、「わたし」と「あなた(わたし以外)」を分けるものを「境界」と呼び、ここにきちんと線を引けることが自立するために必要なことと考えます。他者との境界が曖昧なままだと、自分の考えか他人の考えかを判断することが難しくなり、物事の決断ができなくなってしまいます(「過保護のカホコ」の母子関係が好例です)。スマホの発達した現代では、24時間、どこにいても誰とでも連絡が取れる状態にあるため「わたしだけの場」が作りづらくなっています。秋の夜長は1時間だけスマホの電源をOFFにして、虫の音に包まれながら「わたしだけの場」に浸ってみるのも良いかもしれません。

今後の行事予定(平成29年度)

12月		2月	
平成30年1月	●2日(土)	後期補講日①	●1日(木)
	●9日(土)	後期補講日②	●2日(金)
	●25日(月)	冬季休業開始(～1/5(金)まで)	●16日(金)
	●25日(木)	定期試験時間割発表	後期定期試験②
	●30日(火)	後期授業終了 後期補講日③	後期定期試験③
	●31日(水)	後期定期試験①	後期成績発表 追再試験時間割発表

訂正とお詫び

前回の夏号(No.286)に下記の誤りがありました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

P5 学部名 誤 ライフデザイン学部
正 ライフデザイン学部

P8 平成29年度東北工業大学奨学生・成績優秀者受賞学生
■東北工業大学奨学生 ■成績優秀者賞 各一覧
項目名: ライフデザイン学部学科名の重複表記
誤 SD 正 MC
大学院 (7名): 環境情報工学専攻・デザイン工学専攻
誤 博士(後期) 課程3年
正 博士(前期) 課程2年